

連載

Turbo HAMLOGの 部屋

Turbo HAMLOG開発者
JG1MOU 浜田 博 Hiroshi Hamada

第5回

Turbo HAMLOG/Winの環境設定

Turbo HAMLOG/Win (以下、HAMLOGと略します) のオプションメニューから開く[環境設定]について、本誌 2024年9月号の続きをご紹介します。

環境設定の[設定4]

図1は、HAMLOG のオプションメニューから表示させた環境設定の「設定4」タブです。

図1 ICOM CI-V 接続1

アイコムのリグとHAMLOGを接続する機能です。写真1は、ノートパソコンとIC-705をUSBケーブルで接続した状態で、HAMLOGの入力ウィンドウがIC-705と連動しています。機能としては、

リグのダイヤルを回したりバンドやモードを変更したりすると、それに連動してHAMLOGの入力ウィンドウの周波数やモードが変化します。

入力ウィンドウの周波数やモードをリグに転送すると、リグの周波数やモードが連動します。

入力ウィンドウの右クリックメニューから、VFOのA/B切り替えができます。

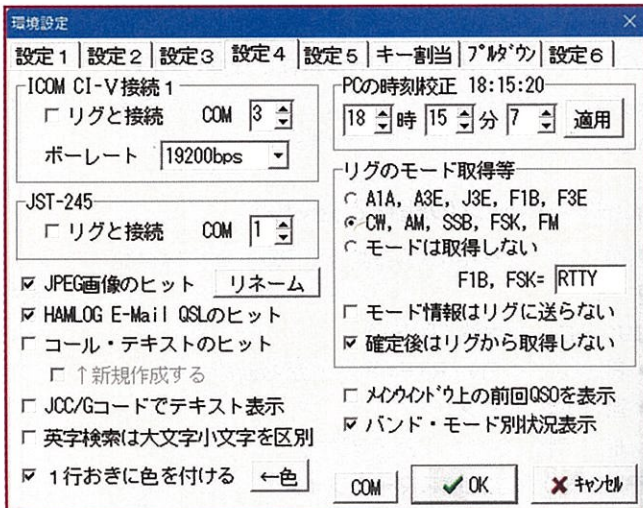


図1 オプションメニューから表示させた環境設定で、「設定4」のタブを表示している

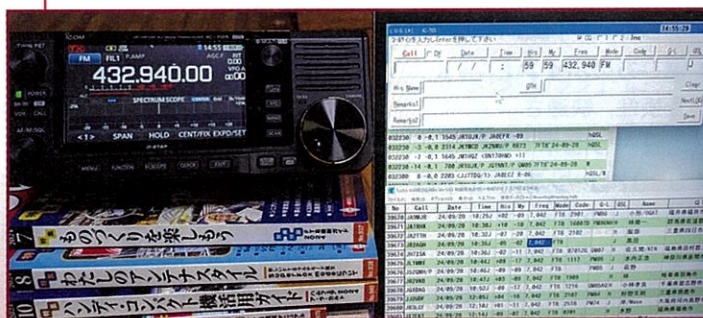


写真1 IC-705とノートパソコンをUSBケーブルで接続した状況。周波数とモードが連動している

入力ウィンドウの右クリックメニューから、リグの送受信切り替えができます。

アイコム機との接続の設定方法

リグとパソコンを USB ケーブルで接続しますので、アイコムのホームページから USB ドライバーをダウンロードし、インストールしてください。これらについては、リグの取扱説明書やアイコムのホームページを参照してください※1。

図1の「リグと接続」にレ点を入れます※2。

図1の COM 番号を選択します。COM は RS-232C という通信ポートの番号です。使用可能な COM 番号は、図1の下の方の「COM」ボタンで確認できます。

図2は、「COM」ボタンをクリックして表示された状況です。図2では COM5 が使用可能なので、図1左上の COM 番号3 を 5 に変更します。



図2 環境設定の「設定4」タブや「設定5」タブの「COM」ボタンをクリックした状況。パソコンの COM ポートの状況が表示される

図1のボーレートは、HAMLOG とリグとの通信速度です。図1のとおり 19200bps で OK です。

最後に図1の「OK」ボタンをクリックし、HAMLOG を再起動させてください。

HAMLOG を再起動させたら、入力ウィンドウの右クリックメニューから「入力環境設定」を選択します。

図3は、入力環境設定の「リグ接続設定」タブです。入力ウィンドウごとに設定することができ、図3は LOG-[A] の設定です。つまり、入力ウィンドウ LOG-[A] はアイコム、LOG-[B] は八重洲無線、LOG-[C] は別の固定機といった使い分けができます。

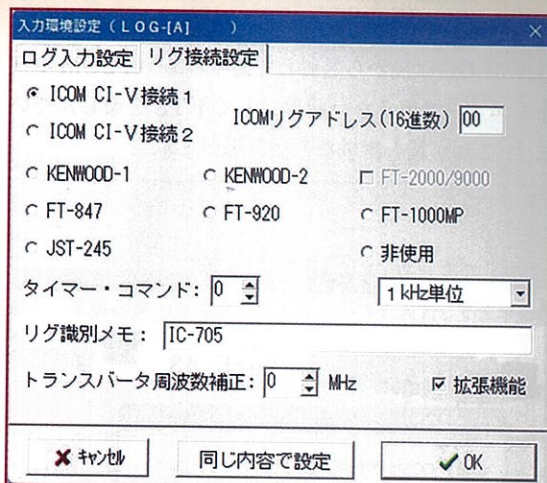


図3 入力環境設定の「リグ接続設定」タブ。入力ウィンドウごとにリグとの接続を設定できる

図1の環境設定の「設定4」タブで「ICOM CI-V 接続 1」を設定していますので、図3でも「ICOM CI-V 接続 1」を選択してください。

図3の「ICOM リグアドレス (16進数)」はアイコムのリグを識別する数値ですが、1ポートに1台のリグなので「00」(ゼロゼロ)で大丈夫です。

図3のタイマー・コマンドは、アイコムの場合はゼロとしてください。

図3の「リグ識別メモ」に記載したリグの名称は、入力ウィンドウのタイトルバーに表示されます。

最後に「OK」ボタンをクリックして設定完了です。

※1 ホームページは <https://www.icom.co.jp/> サポート情報 ⇒ 個人のお客様 ⇒ ダウンロードと探してください。

※2 FT8 の場合は、WSJT-X や JTDX でリグ接続の設定をします。FT8 以外は運用しない場合、この機能を設定する必要はありません。

WSJT-XやJTDXとの リグ接続併用について

FT8の場合は、WSJT-XやJTDXでCOMポートを使用しますので、前述のHAMLOGのリグ接続機能とCOMポートがバッティングしてしまいます。

図4は、HAMLOG起動時のCOMポートエラーです。筆者の場合は、WSJT-XやJTDXを先に起動し、HAMLOGは後から起動して図4のようにCOMポートをエラーで使えない状態にしてFT8を楽しんでいます。これが最も簡単な方法と思います。

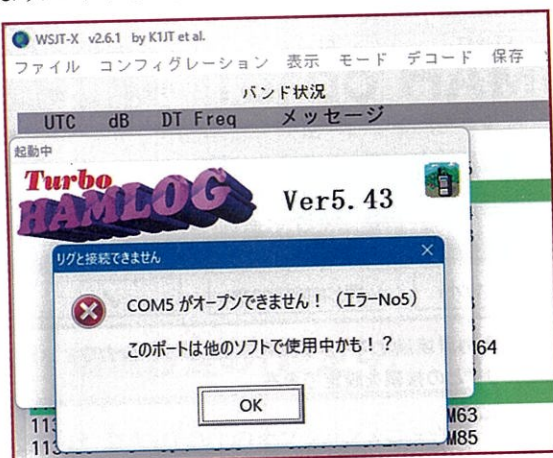


図4 HAMLOG 起動時にCOMポートが使えなかった場合のエラー

図1 JPEG 画像のヒット

環境設定の[設定4]タブに戻ります。

図1 [JPEG 画像のヒット] は、アイボールしたときの写真、スキャナーで取り込んでおいた紙のQSLカード、eQSL.ccによる電子QSLなどを特定のフォルダに保存しておき、コールサイン入力時にパッと表示させる機能です。

表示させる画像はJPEGファイルで、拡張子は.JPGに限ります。JPEGではダメです。

図5は、ここにレ点を入れたときに表示されるフォルダ選択ウィンドウです。JPEG画像ファイルを保存したフォルダを選択してください。

フォルダを変更したいときは、図1の [JPEG画像ヒット] のレ点を入れ直してください。

ファイル名は、コールサイン+下線符号+任意の文字列です。例えば、

JG4IJP_01.jpg JG4IJP_02.jpg JG4IJP_03.jpg

のように同一コールサインの画像を複数置くことができ、タイムスタンプの新しい順やファイル名順、またはこれらの逆順に表示させることができます。

5文字以下のコールサインや7文字以上の長いコールサインの場合でも、コールサインに下線符号を付けたファイル名としてください。

【例】8J1A_240831.jpg 8J3ABCDE_240909.jpg

図5では、プリフィックス2文字のサブフォルダが複数あります。JPEG画像が大量にある場合、整理しやすいようプリフィックス2文字でフォルダ分けすることができます。

図5の例では、設定するフォルダがD:\¥Hamlog¥HitJPEGですので、7Kから始まるコールサインの画像ファイルはD:\¥Hamlog¥HitJPEG¥7Kに置きます。

例えば、7M1SZJ局と交信した場合、HAMLOGはD:\¥Hamlog¥HitJpegとD:\¥Hamlog¥HitJpeg¥7Mの両方のフォルダから画像を探して表示します。プリフィックス2文字のフォルダは、ご自身で作成してください。

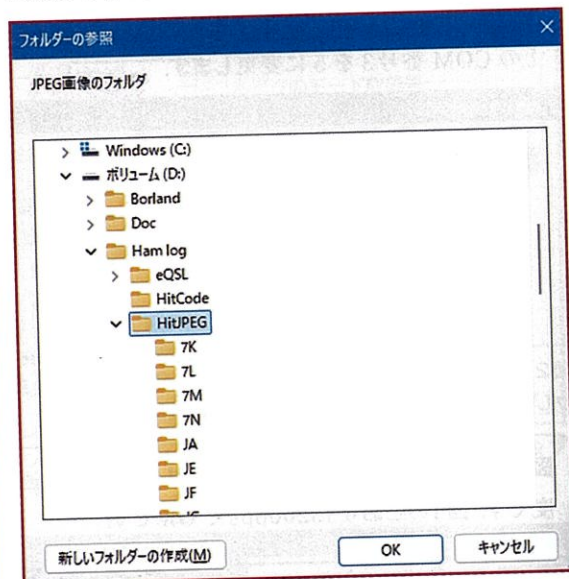


図5 コールサインがファイル名のJPEG画像のフォルダ選択ウィンドウ

図1 リネーム

[JPEG画像のヒット] で表示対象となるように、JPEGファイル名に一括して下線符号を加えます。

コールサインをファイル名とした画像を作成し、[JPEG画像のヒット] のフォルダに置いて [リネーム]

ボタンをクリックすれば下線符号と数字を自動的に挿入します。

【例】JA1QRM.jpg ⇒ JA1QRM_00.jpg

すでにリネーム後のファイルが存在する場合は、重複しないようリネームします。

【例】JA1QRM.jpg ⇒ JA1QRM_01.jpg

ファイル名の7文字目に下線符号を挿入します。

【例】JA1QRZ01A.jpg ⇒ JA1QRZ_01A.jpg

なお、大量のJPEG画像がリネーム対象だった場合、セキュリティソフトが誤検知することがあります。その場合、セキュリティソフトの設定でHAMLOGを許可する選択をしてください。

図1 HAMLOG E-Mail QSLのヒット

コールサインを入力したときに HAMLOG E-Mail QSL (以下、hQSLと略します) による電子QSLを探し、表示します。

図6は、ここにレ点を入れたときに表示されるフォルダ選択ウィンドウです。hQSLの受信フォルダを選択してください。

フォルダを変更したいときは、図1の [HAMLOG E-Mail QSL のヒット] のレ点を入れ直してください。

概要は JPEG 画像ヒットと同様で、JPEG 画像ヒットで表示される画像と混在して表示されます。

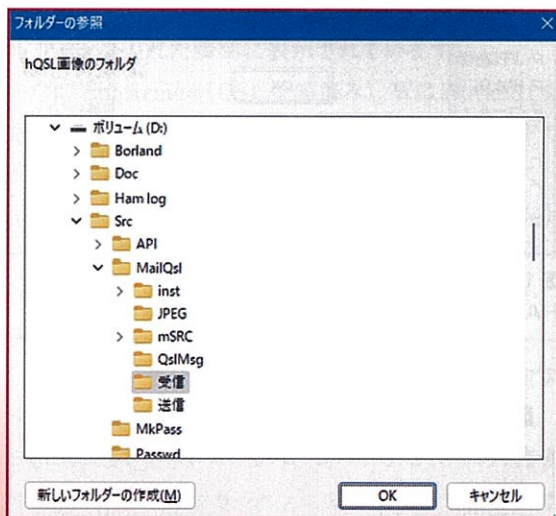


図6 hQSLの受信フォルダを選択するウィンドウ

図7は、筆者がローカル局と交信した時に表示された JPEG 画像です。60 個の画像がありますので、マウスホイールを回転させて次々に表示画像を切り替えることができます。

なお、hQSL 登録局でなければ図1の [HAMLOG E-Mail QSL のヒット] は使用できません。

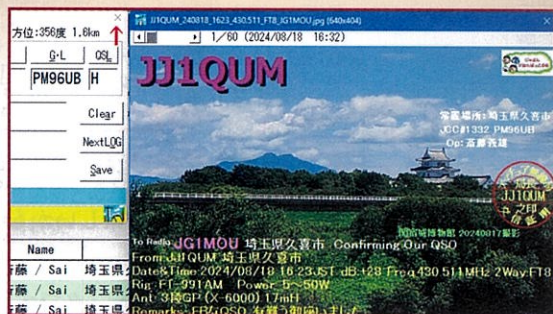


図7 筆者のローカル局のコールサインを入力して表示された JPEG 画像

図1 コール・テキストのヒット

コールサインを入力したときに、入力したコールサインと同名のテキストファイルを表示します。

例えば、入力ウィンドウで JG1MOU と入力すれば、JG1MOU.TXT というテキストファイルを探し、存在すれば表示します。一つのコールサインに一つのファイルです。

図8は、ここにレ点を入れたときに表示されるフォルダ選択ウィンドウです。テキストファイルを置いたフォルダを選択してください。

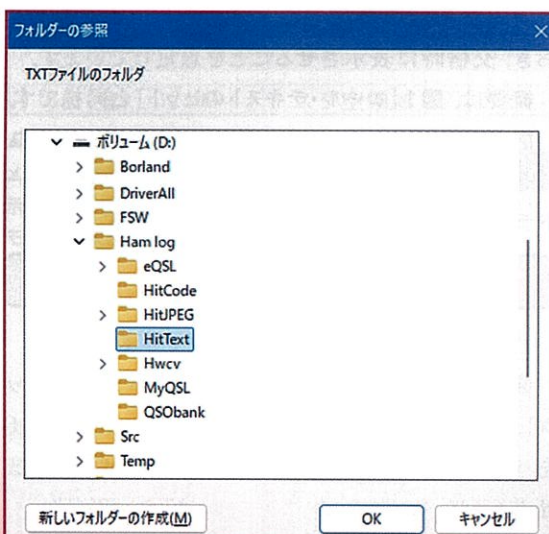


図8 コールサインがファイル名のテキストファイルを置いたフォルダを選択するウィンドウ

フォルダを変更したいときは、図1の[コール・テキストのヒット]のレ点を入れ直してください。

この機能は、HAMLOGを再起動すると使えるようになります。

また、図1の[↑新規作成する]にレ点が入っていると、コール・テキストファイルにヒットしなかった場合、新規作成の状態でコール・テキストエディタが開きます。

相手局と交信した時の話題のメモなど、ちょっとしたことを書き込んでおけば次の交信時に楽しいかもしれません。

図9は、表示されたコール・テキストエディタです。図9では、[書式付きで保存する]にレ点が入っていますので、文字の色、大きさやフォントを変えて保存することができます。

図1 JCC/Gコードでテキスト表示

市区町村コードが入力されたときに、同名のテキストファイルを表示することができます。

入力ウィンドウでコールサインを入力し、ユーザーリスト等にヒットすれば、登録済みのJCC/Gコードからテキストファイルを表示させることができます。

例えば、入力ウィンドウのコード欄に、1332が入力されれば、1332.TXTというファイル名のテキストファイルが存在すれば表示します。

各市区町村の特産品などをあらかじめ記録しておき、交信時に表示させることを想定しています。

概要は、図1[コール・テキストのヒット]と同様です。

図10は、メインウィンドウのファイルメニューです。JPEG画像の表示や、コール・テキスト、JCC/Gコードテキストを開いて編集することができます。

図1 PCの時刻校正

パソコンの時刻を校正することができます。

図1の[時・分・秒]を指定し、[適用]ボタンをクリックした瞬間の時刻に校正されます。ただし、HAMLOGをパソコンの管理者権限で起動しなければ機能しません。

図11は、不正な時刻設定やHAMLOGが管理者権限ではない状態で動作させていた場合のエラー



図9 コールサインがファイル名のテキストファイルを編集している状況。文字の色や大きさ、フォントなど書式付きで保存することができる



図10 メインウィンドウのファイルメニュー

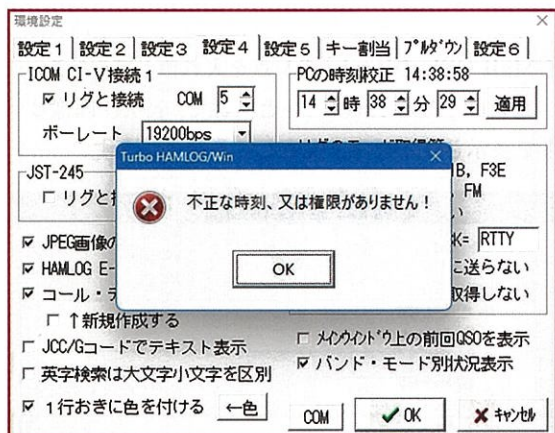


図11 パソコンの時刻を変更しようとしたときのエラー。HAMLOGを管理者権限ではない状態で起動したため

です。

図12は、HAMLOGのアンテナマークのアイコンを右クリックし、メニューから[プロパティ]を表示させた状況です。

[管理者としてこのプログラムを実行する]にレ点を

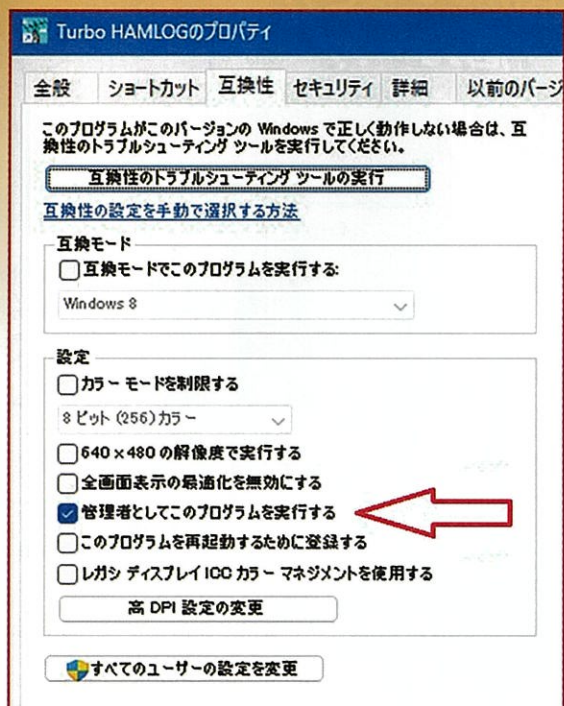


図12 HAMLOGのアイコンの右クリックメニューから表示させた「プロパティ」

入ってからHAMLOGを起動させれば、図11のエラーは出なくなります。

図1 バンド・モード別状況表示

レ点を入れておくと、入力ウィンドウのCode欄にJCCコードなどが入力されたとき、DX市区町村ごとのバンド・モード別の交信状況が表示されます。

図13は、筆者が埼玉県鴻巣市と交信したときの状況で、HAMLOGユーザーとの交信だったためコールサインを入れた瞬間に表示されています。

CはConfirmed (QSL受領済み)、WはWorked (交信したけれどQSL未受領)です。各バンド、各モードで交信しており、QSLカードの受領状況もわかります。

図13の「バンド・モード別状況」は、入力ウィンドウの右クリックメニュー、メインウィンドウの右クリックメニュー、メインウィンドウの「表示」メニューから表示させることができます。

入力ウィンドウから表示させた場合は、入力ウィンドウ上のJCC/G等コードに基づき集計表示します。

図14は、「表示」メニューです。メインウィンドウの「表示」メニューや右クリックメニューから表示させた場合は、メインウィンドウ上のセル位置のJCC/G等コー

ドに基づき集計表示します。

図15は、「バンド・モード別状況」上の右クリックメニューで、この集計から除外したいQSL受領マークの文字や、除外したい古い交信を指定することができます。

それでは、次号に続きます。

◎◎

1317 埼玉県鴻巣市

	CW	FT8	SSB	FM
1.9	C			
3.5		C	C	
7	C	C	C	
50	C	C	C	
144		W	C	
430		C	C	C

該当件数:138件

図13

筆者の交信データで、埼玉県鴻巣市とのバンド・モード別交信状況

LOG/Win Ver5.43 無線局免許状～令和10年2月29日まで有効

(S) オプション(O) 表示(V) ヘルプ(H) 使用データ(D) = D:\Hamlog\HAMLOG.hdb

Call	D	並べて表示(C) 重ねて表示(T)	Mode
VQD	24/		FT8
CGU	24/	ユーザーリスト表示(U) テキストデータ表示(V) テキストデータ表示(W)	FT8
UCV	24/		FT8
EYS	24/	Wkd/Cfmマスターデータ集計(M)...	FT8
KNR	24/	Wkd/Cfm一覧表示(H)...	FT8
PFI	24/	エリア別交信件数(E)...	FT8
EUP	24/	QSL未着一覧(Q) QSL未着コール順一覧(S)...	FT8
HOU/7	24/	QSL受領/発行状況一覧(I)	FT8
SFE/P	24/	マスターデータ一覧表示(D) ワッチデータの表示(A)...	FT8
XGF	24/	バンド・モード別状況(B)...	FT8
GYL	24/		FT8
BPS	24/09/03 13:31J	-15 -09 7.042	FT8

月 6日(金) 12:09 ディスク空領域:927,058M

▲ 図14

メインウィンドウの「表示」メニューの「バンド・モード別状況」

1332 埼玉県久喜市

	FT8	SSB	FM	AM
3.5	C	C		
7	C	C		
10	C			
21		C		
28			C	
1200			C	

除外QSL受領マーク
レコード番号指定
閉じる(X)

該当件数:210件

図15

バンド・モード別状況の右クリックメニュー